



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2018 年 2 月 9 日

氏名： 松井 浩紀

所属機関・職名：高知大学海洋コア総合研究センター・特任助教

活動の種類 (該当項目を残す)	5. Sampling party
IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 371
乗船時の役割	Paleontologist (foraminifers) (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2018 年 1 月 28 日 ~ 2018 年 2 月 4 日
用務地 (国・都市)	アメリカ・テキサス
本活動における成果	
<p>2017 年 7 月～9 月に行われた研究航海の試料を採取するため、アメリカのテキサス A&M 大学を訪れサンプリングパーティに参加した。本航海では総計約 12000 試料がリクエストされており、5 日間かけて試料採取を行った。乗船研究者約 20 名が複数のグループに分かれ、Site U1506～Site U1511 のサンプリングを並行して行った。私は他乗船研究者と協力して主に Site U1508 の試料採取を進め、試料の状態を確認しながら注意深くサンプリングした。自らリクエストしたサンプルは約 600 試料 (Site U1507, Site U1508, Site U1510) であり、5 日間でその全てを採取することができた。今後試料が到着次第、乗船後研究を進める予定である。</p> <p>サンプリングの合間に、共同首席研究者の R. Sutherland 氏から航海の成果を集約した発表が行われ、今後の論文執筆に関して研究者間で議論が行われた。さらに、サンプリングパーティに先立って行われた XRF 分析について、速報結果が共有された。およそ 2 年後のポストクルーズミーティングを前に、国際会議等で乗船研究者が積極的に集まる方針も定められた。私も有孔虫研究者を中心とした共同研究の議論に加わり、乗船後研究を行うにあたって有用な情報 (研究室間で共通の分析手法を用いる、他研究者の動向を探るなど) を得ることができた。</p>	
備考	
本報告書は J-DESC ウェブサイトに掲載されます。未発表の研究データなど、公開に差し支えのある情報が含まれていないかご確認ください。 → 確認後チェック <input checked="" type="checkbox"/>	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構地球深部探査センター (CDEX) 内 J-DESC サポートオフィスに E-mail (jdesc@jamstec.go.jp) でご提出ください。